

安川電機 (6506)

2011年3月期決算説明会：要約版 (2011年4月21日)

2010年3月21日～2011年3月20日

取締役社長 津田 純嗣

本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。

実際の業績等に影響を与える重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

目次

2010年度決算について - セグメント別事業概要 -

- ・連結決算のポイント
- ・連結セグメント別業績
- ・営業利益増減要因分析(2009年度 2010年度)
- ・事業セグメント別売上高構成比
- ・仕向先別売上高(2009年度 2010年度)
- ・仕向先別売上高構成比
- ・四半期連結売上高推移 (セグメント別・仕向先別)
(仕向先別 / モーションコントロール・ロボット)
- ・2010年度重要方策の遂行状況
- ・00～10年度連結売上高・営業利益推移

2011年度について

- ・2011年度事業環境見通し
- ・各地域の製造業PMI指数
- ・2011年度の連結業績予想および位置付け
- ・2011年度の取り組み
- ・東日本大震災の影響および対応

(参考) ・設備投資、研究開発費、為替状況 ・B/S構造の推移(連結) ・主要生産拠点

セグメント別事業概要

モーションコントロール:(M)

ACサーボは、工作機械、ロボット、食品・包装機械、印刷機械等に組み込まれています。半導体や電子部品装置に使われるほか、プレス関連、射出成型機などへも用途が拡大しています。

インバータは、産業機械はもちろん、エアコン、冷蔵庫、洗濯機、健康医療関連機器などの民生分野や、エレベータ、クレーンといった輸送機器にも使われています。無駄な電力消費を抑え、省エネに貢献する機器として脚光を浴びています。



【ACサーボ適用事例】チップマウンタ



【インバータ適用事例】
エスカレータ

ロボット:(R)

ロボットは、自動車、電機関連市場を中心に、溶接、塗装、ハンドリング、搬送などの各種工程の自動化に貢献しています。

また、半導体市場ではクリーンロボット、真空ロボットが使われるほか、液晶市場では、ガラス基板搬送用途にロボットが使われます。



4台のロボットによる
協調溶接



双腕ロボットによる
使い捨てカメラ組立



第10世代液晶搬送ロボット

システムエンジニアリング:(S)

システムエンジニアリングは、製鉄所や水処理(上下水)など、皆様の生活に欠かせないプラントシステム設備の安定稼動に役立っています。

また、ポンプ、ブロワ等の風水力機械設備の省エネ対策として、高圧インバータの需要も拡大しています。



オフマシンコータ



連続鋳造設備



高炉

情報:(情報)

情報事業では、当社グループ会社のうち、情報事業関連の安川情報システム(株)および(株)ワイ・イー・データの2社が、ソフトウェア開発、コンピュータ周辺機器事業などを行っております。



タッチパネル式液晶端末



ガルバノスキャナシステム

2010年度連結決算のポイント

中国・アジアの好調、主要な国内顧客の業績回復を受け、
(M)モーションコントロール、(R)ロボットを中心に売上・損益とも大きく改善

| | <u>通期</u> | 09年度通期 | <u>前年比</u> | <u>上期</u> | <u>下期</u> |
|-------|----------------|---------|---------------|-----------|-----------|
| 売上高 | <u>2,968億円</u> | 2,247億円 | <u>+32.1%</u> | 1,394億円 | 1,574億円 |
| 営業利益 | <u>128億円</u> | 69億円 | <u>+198億円</u> | 34億円 | 94億円 |
| 経常利益 | <u>134億円</u> | 60億円 | <u>+194億円</u> | 34億円 | 99億円 |
| 当期純利益 | <u>65億円</u> | 57億円 | <u>+122億円</u> | 17億円 | 48億円 |

2010年度連結セグメント別業績

(M)モーションコントロール、(R)ロボットの業績回復が大きく貢献 (単位: 億円、%)

| | 10年度 | | 09年度 | | 前年比 | |
|------------------|-------|------|-------|-------|------|--------|
| | | 利益率 | | 利益率 | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 2,968 | | 2,247 | | +721 | +32.1% |
| (M) モーションコントロール | 1,564 | | 1,048 | | +516 | +49.3% |
| (R) ロボット | 838 | | 570 | | +268 | +46.9% |
| (S) システムエンジニアリング | 343 | | 414 | | 72 | 17.2% |
| 情報 | 141 | | 155 | | 14 | 9.1% |
| 営業利益 | 128 | 4.3% | 69 | 3.1% | +198 | n.m. |
| (M) モーションコントロール | 89 | 5.7% | 31 | 3.0% | +122 | n.m. |
| (R) ロボット | 16 | 2.0% | 83 | 14.6% | +100 | n.m. |
| (S) システムエンジニアリング | 20 | 6.0% | 54 | 13.2% | 34 | 62.4% |
| 情報 | 3 | 2.8% | 9 | 6.0% | +5 | n.m. |
| 経常利益 | 134 | 4.5% | 60 | 2.7% | +195 | n.m. |
| 当期純利益 | 65 | 2.2% | 56 | 2.5% | +122 | n.m. |

2010年度連結セグメント別業績

(M)：地域別では中国・アジアが堅調。インバータはインフラ関連および空調等の省エネ需要、ACサーボは半導体・液晶・電子部品を中心に売上増加。生産体制の強化・効率化も進展

(R)：海外は、アジア・中国向け自動車が堅調。米・欧も順調に回復。国内は、非自動車向け案件などを中心に売上回復。半導体・液晶も高水準な売上。採算重視の事業運営が定着

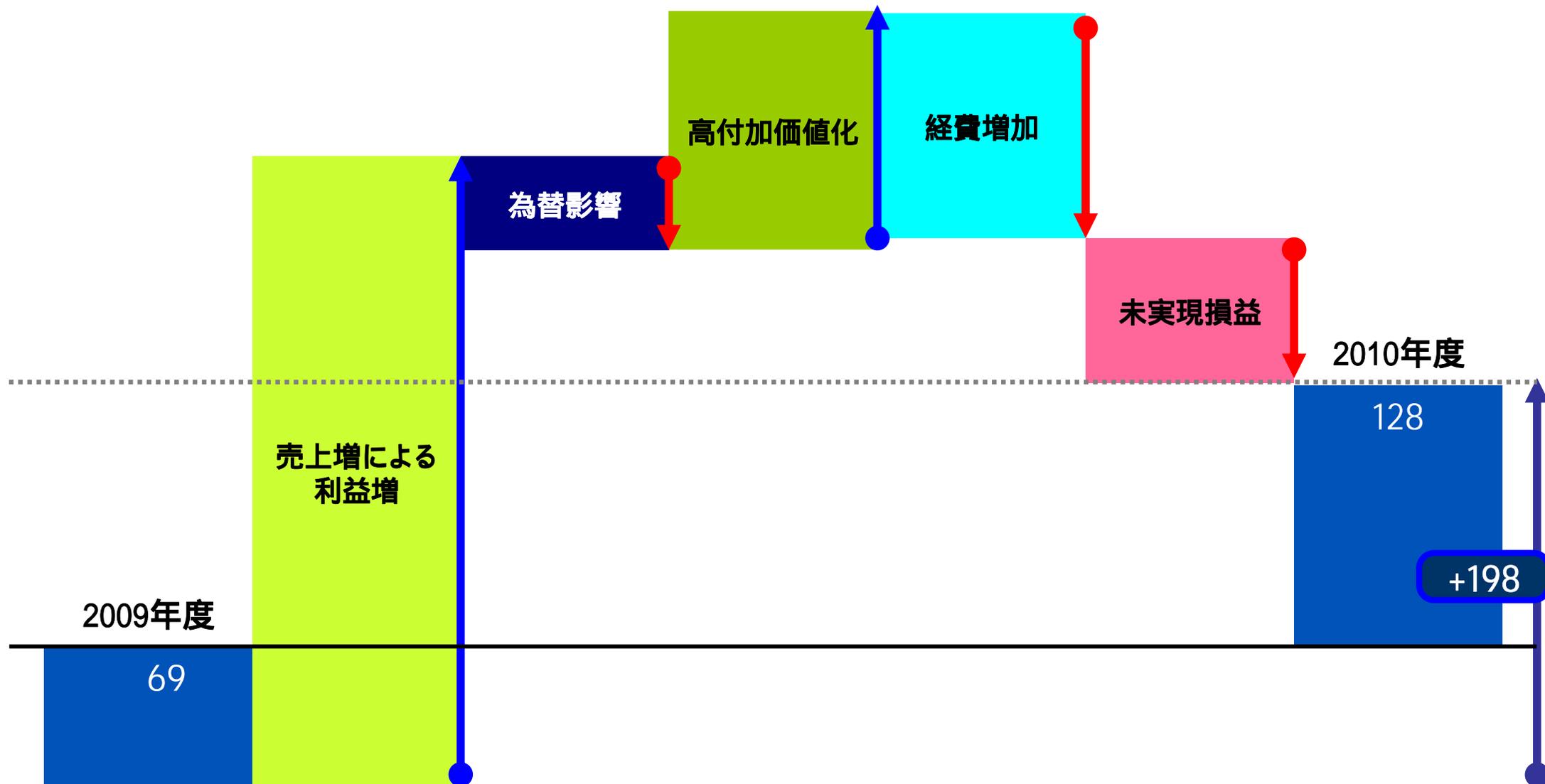
(S)：鉄鋼向けおよび水処理の売上が減収となる中で、原価低減と採算管理により黒字維持

(情報)：情報関連投資抑制の環境下で原価低減などにより損失は減少

(注)表記：(M) = モーションコントロール (R) = ロボット (S) = システムエンジニアリング

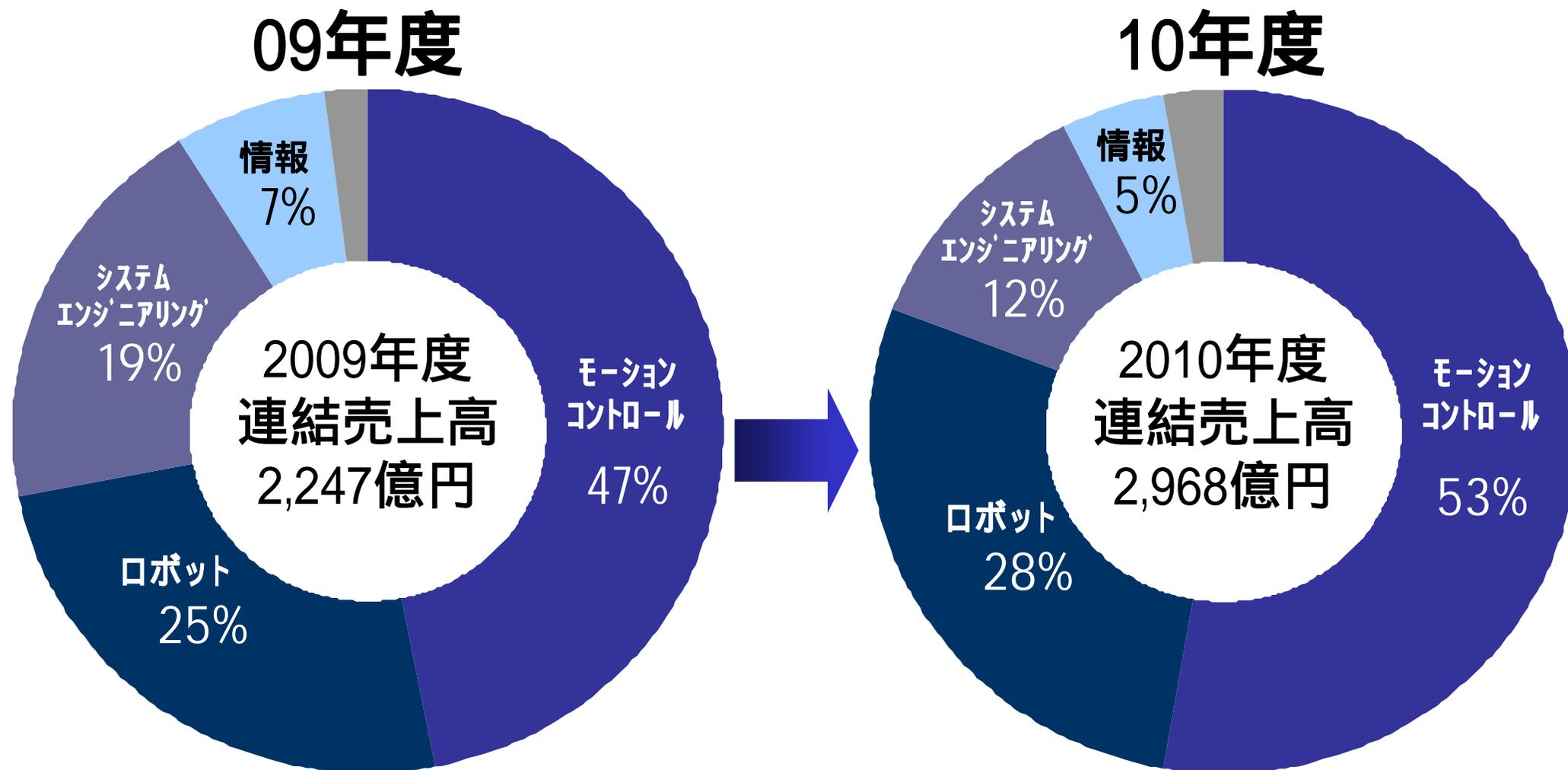
営業利益増減要因分析(2009年度 2010年度)

(単位:億円)



事業セグメント別売上高構成比

(M)モーションコントロール、(R)ロボットが伸長し、構成率が増大



仕向先別売上高(2009年度 2010年度)

海外・国内ともに売上が伸びた。特に海外向けは前年比4割の増加

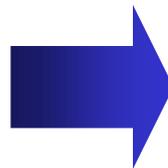
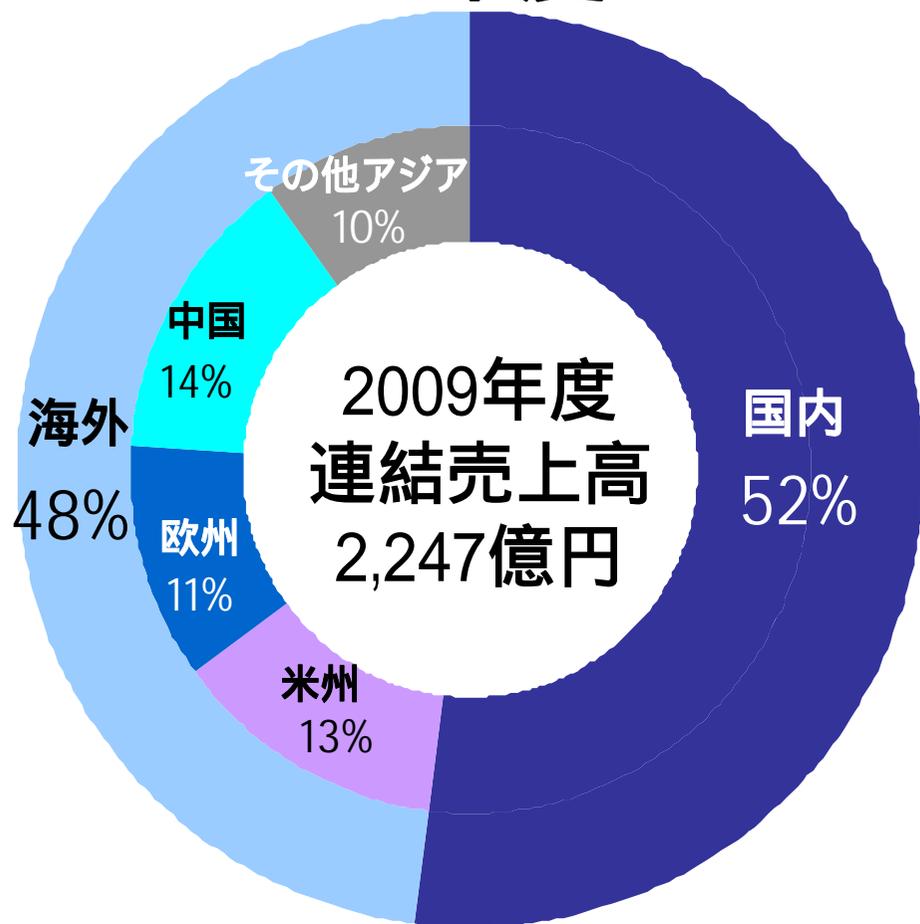
(単位:億円、%)

| | 10年度 | 09年度 | 前年比 | |
|--------|-------|-------|------|--------|
| | | | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 2,968 | 2,247 | +721 | +32.1% |
| 国内 | 1,448 | 1,162 | +286 | +24.6% |
| 海外 | 1,521 | 1,085 | +436 | +40.2% |
| 米州 | 388 | 293 | +95 | +32.4% |
| 欧州 | 296 | 243 | +53 | +21.8% |
| 中国 | 428 | 319 | +109 | +34.2% |
| その他アジア | 399 | 220 | +179 | +81.4% |

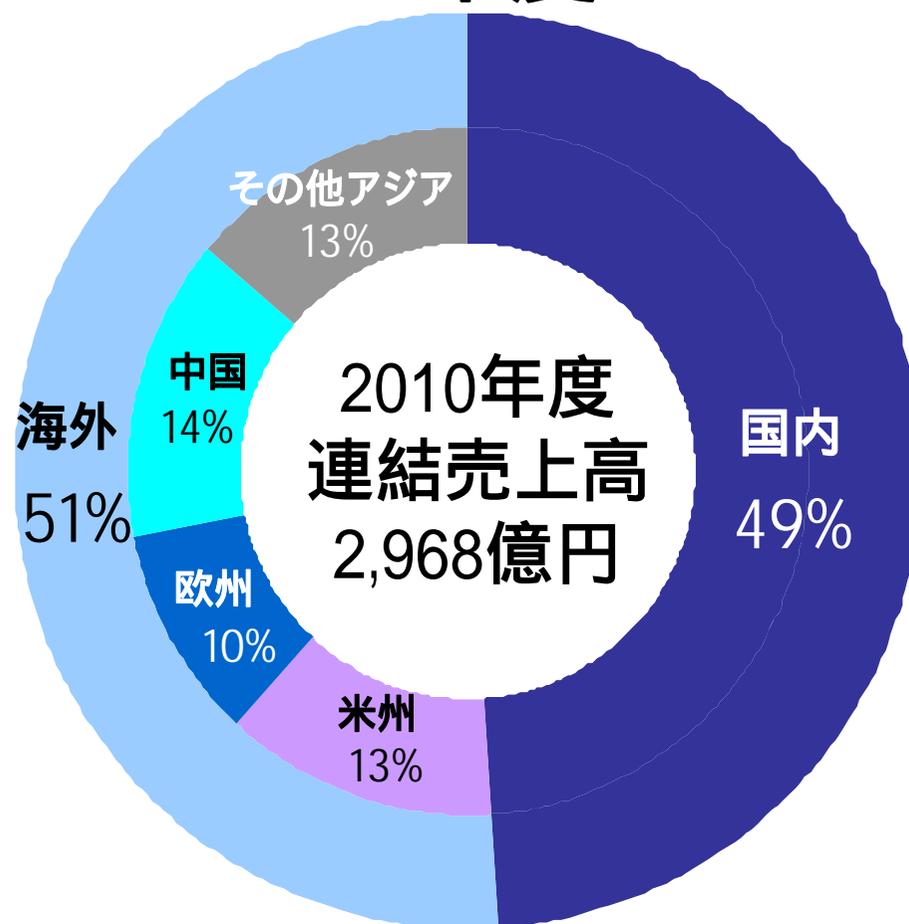
仕向先別売上高構成比

海外・国内ともに売上伸長、特にその他アジアが拡大し
海外構成比は51%へ

09年度



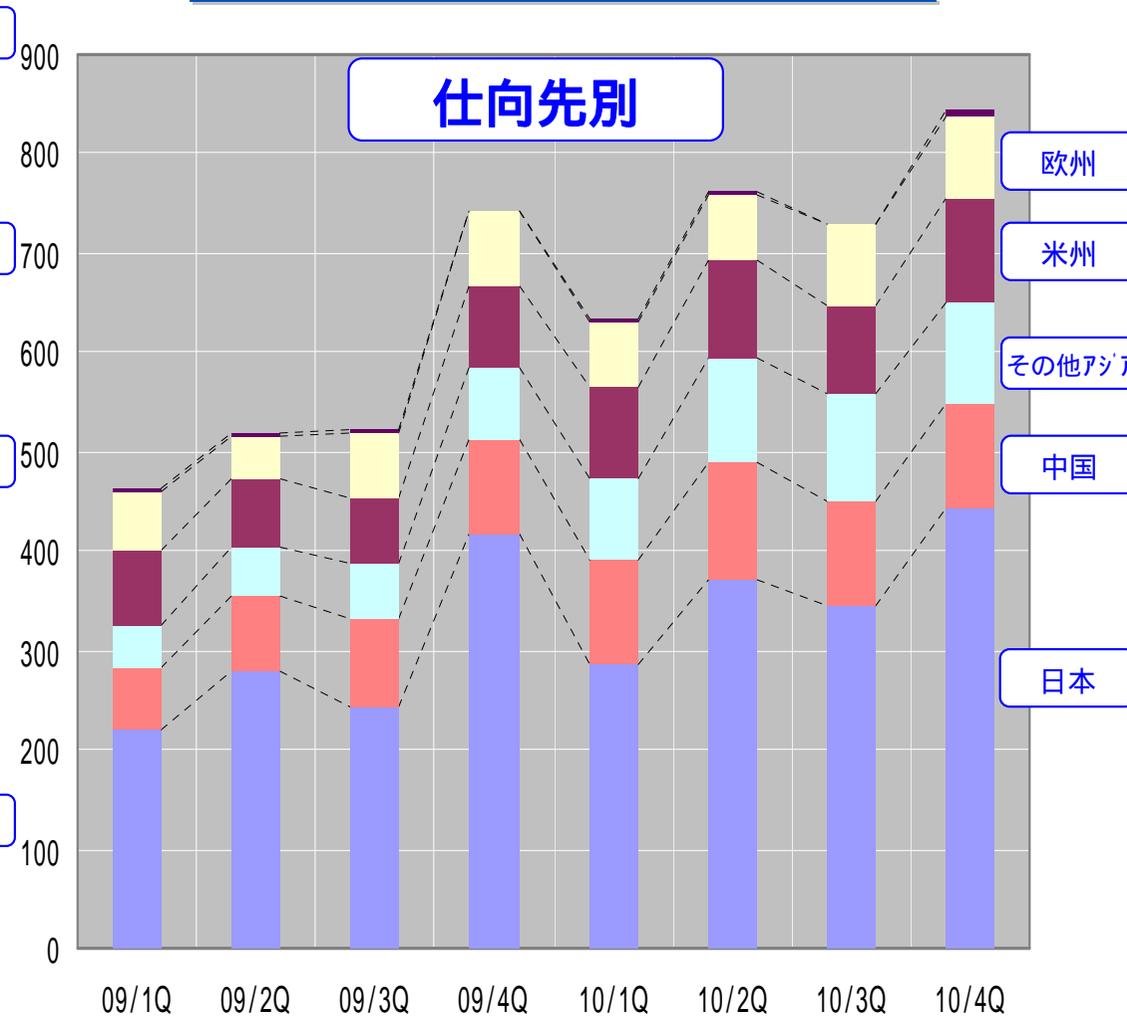
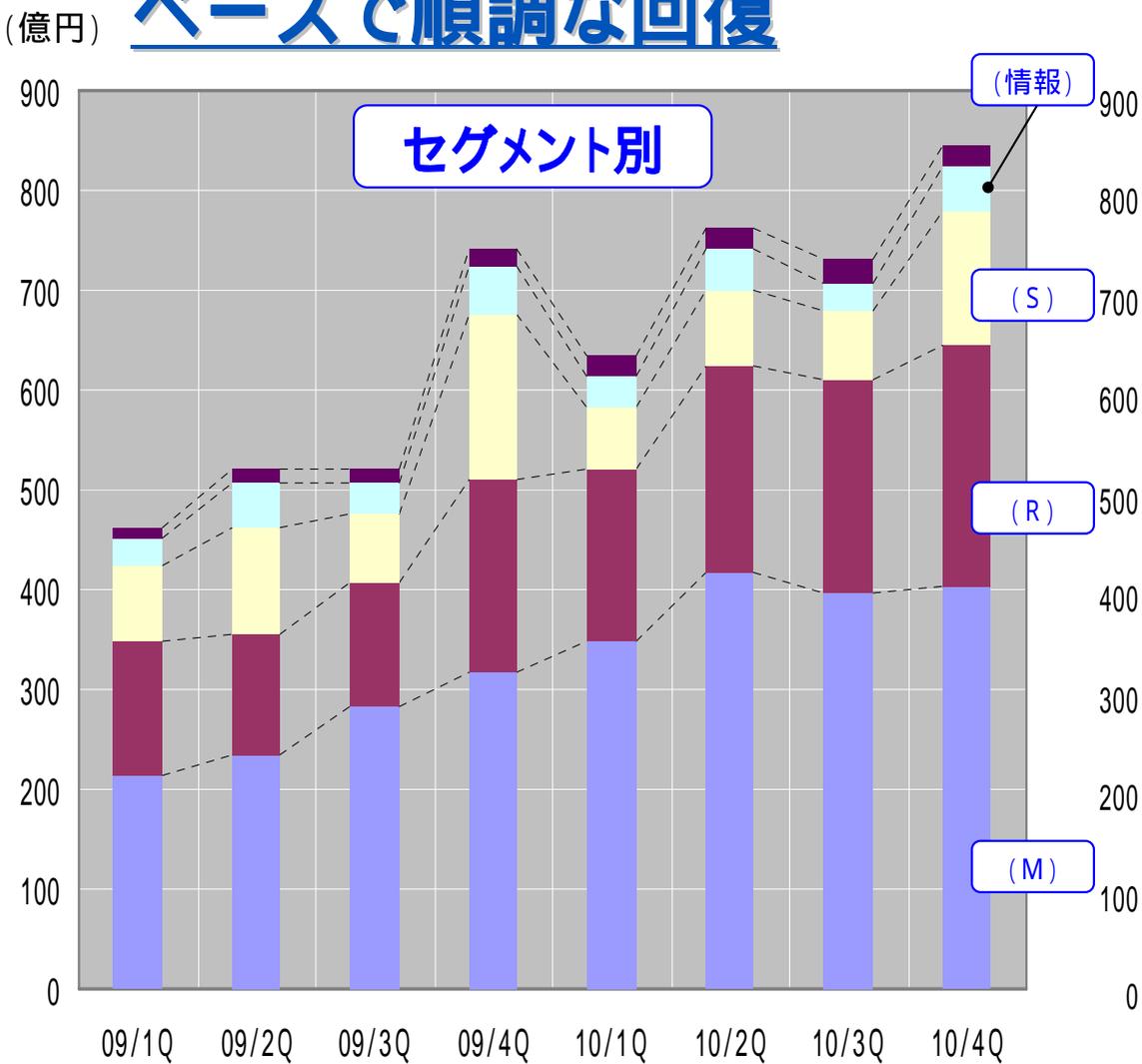
10年度



四半期連結売上高推移 (セグメント別・仕向先別)

09/1Qをボトムに前年同期比
ベースで順調な回復

中国・アジアが牽引役
日・米・欧は堅調に回復



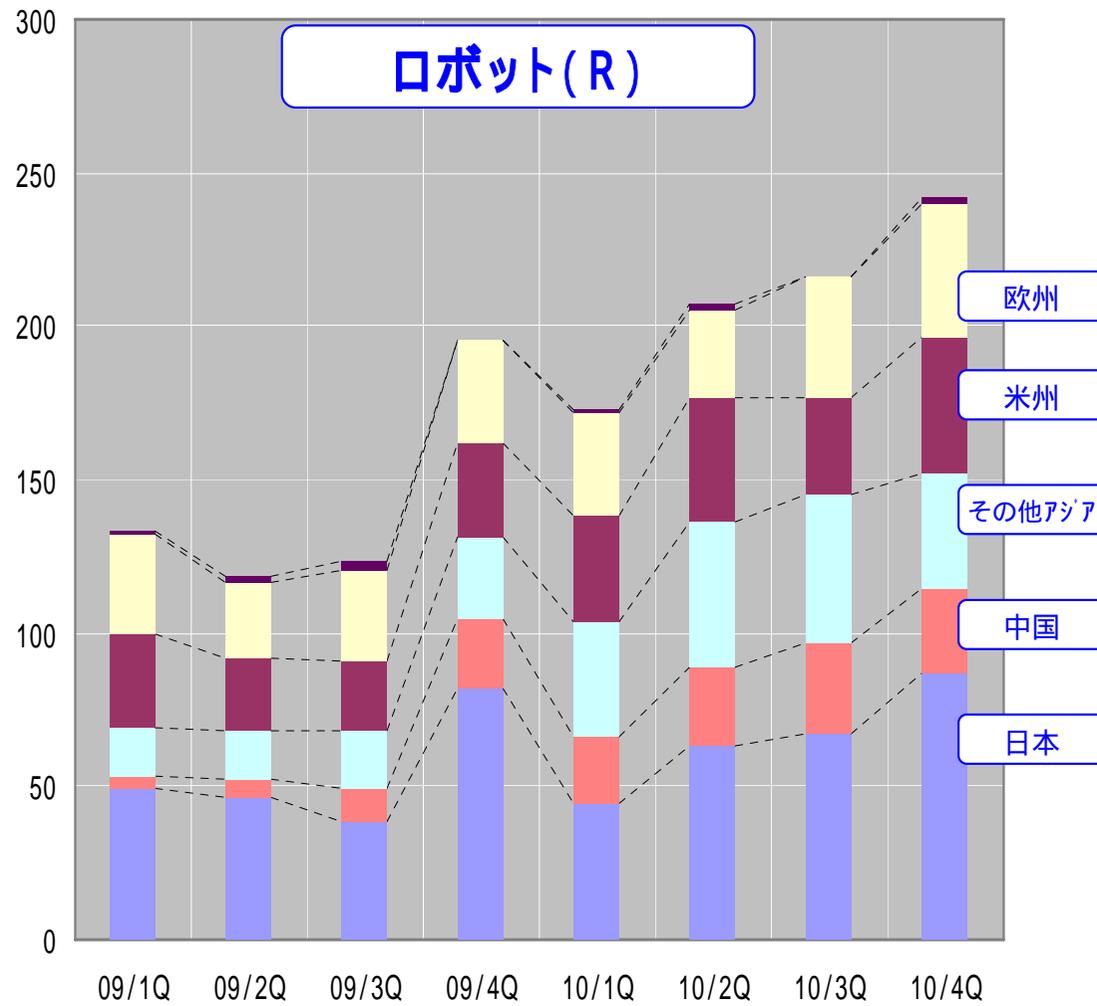
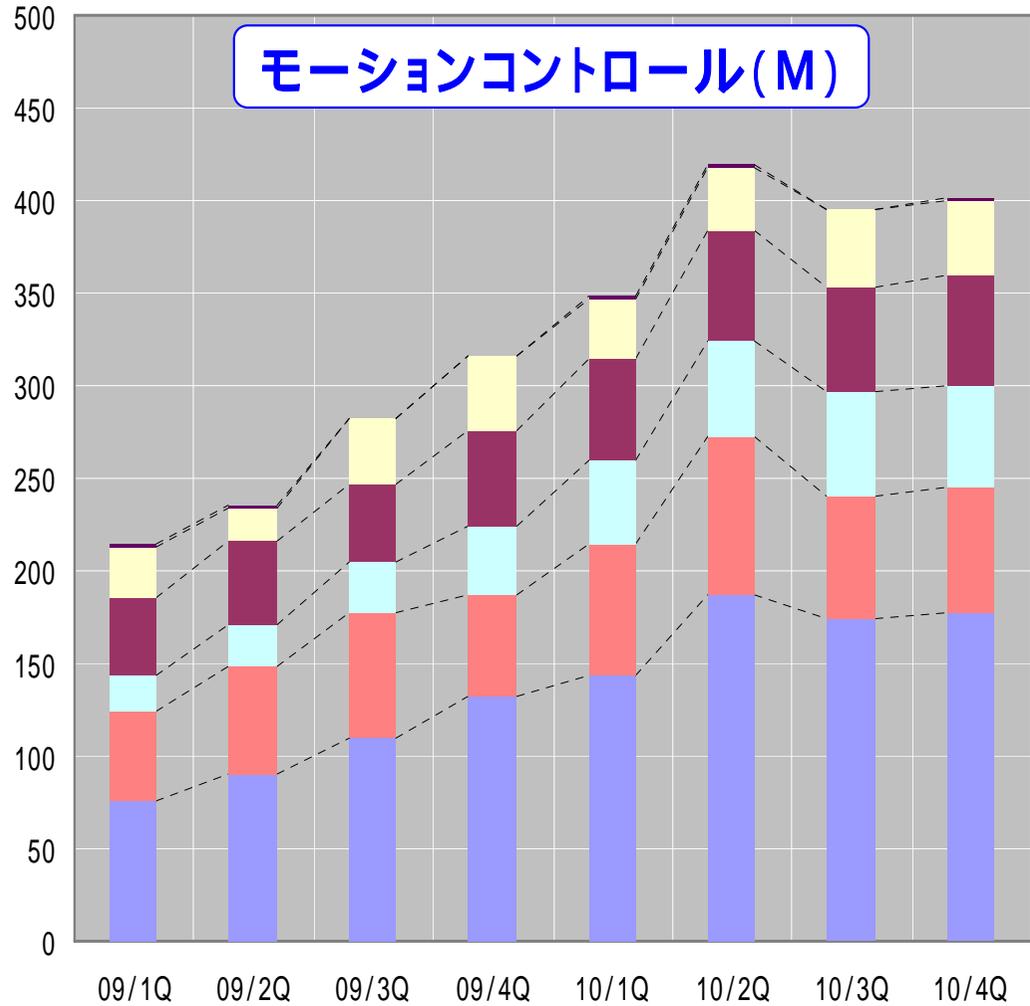
(注) 表記: (M) = モーションコントロール (R) = ロボット (S) = システムエンジニアリング

(M)(R) 四半期連結売上高推移 (仕向先別)

下期で一服感あるも中国・アジアは高水準、日・米・欧は回復基調

中国・アジアは順調に拡大
米・欧・日は回復傾向

(億円)

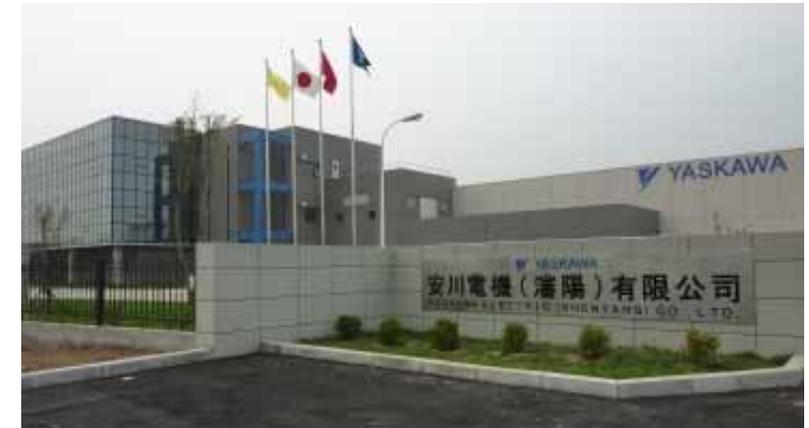


(注) 表記: (M) = モーションコントロール (R) = ロボット

2010年度重要方策の遂行状況

中国を中心としたアジアシフトの加速

- ・ACサーボモータの瀋陽工場を稼動(2010年6月)
2011年度本格立上げに向け、工作機等の拡販、
生産拡充を推進中
- ・上海インバータ工場の生産能力拡大
生産能力を3倍増(期初計画30万台/年体制から
50万台体制へ拡大)
- ・上海にロボット販売・事業推進機能を配置
中国での販売・サービス体制を強化・拡大
- ・モーションコントロール製品拡販のための、インド法人設立(2010年8月)
インド工場の立上げとインバータ生産開始(2011年3月)
- ・インドにおけるロボット販売会社の完全子会社化(2011年3月)
急速に成長するインド市場での売上・シェア拡大加速



中国 安川電機(瀋陽)有限公司 外観

2010年度重要方策の遂行状況

円高対応策の強化

11年度継続強化方策

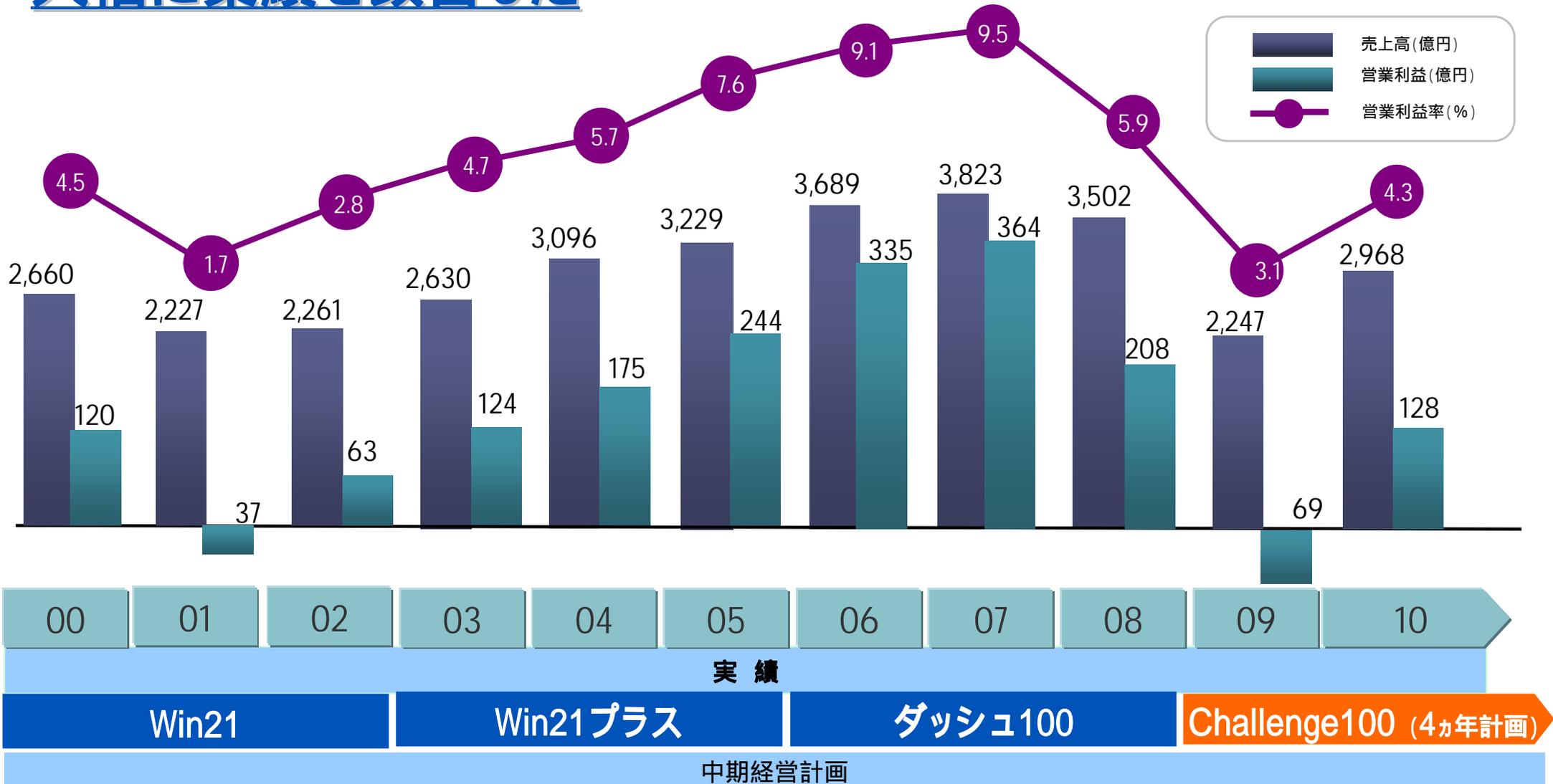
- ・現地生産の更なる拡大
中国を始め需要地生産の拡大、中国・アジアでの新規生産
2010.12.21付で中国調達室を新設(中国現地調達およびグローバル調達拡大のため)
- ・海外調達品の拡大・コストダウン強化
輸入品の値引き、中国現地調達品の輸入・OUT-OUT化
- ・粗利改善(価格改善)
主力機種への切り替え促進、旧製品の値上げ、価格改善
- ・経費・運営コストのミニマム化
日本国内運営コストのミニマム化、海外事業への資源配分

環境エネルギー分野の事業拡大

- ・大形風力発電用機器の受注拡大
大手カスタマ攻略、中国中堅メーカー開拓、量産型製品への強化
- ・太陽光パワーコンディショナの拡販強化
代理店販売網の拡充、システムインテグレータの攻略、国内外パネルメーカーへのアプローチ強化
- ・自動車等電気駆動システム事業の立上げ
重点カスタマに対する試作品開発、評価試験の取り組み、製品の品揃え・コストダウン
2010.12.21付で事業統括部を新設(技術開発本部からインバータ事業部へ移管)

00～10年度連結売上高・営業利益推移

2010年度では売上高および生産高が急回復したことにより、大幅に業績を改善した



2011年度の事業環境見通し

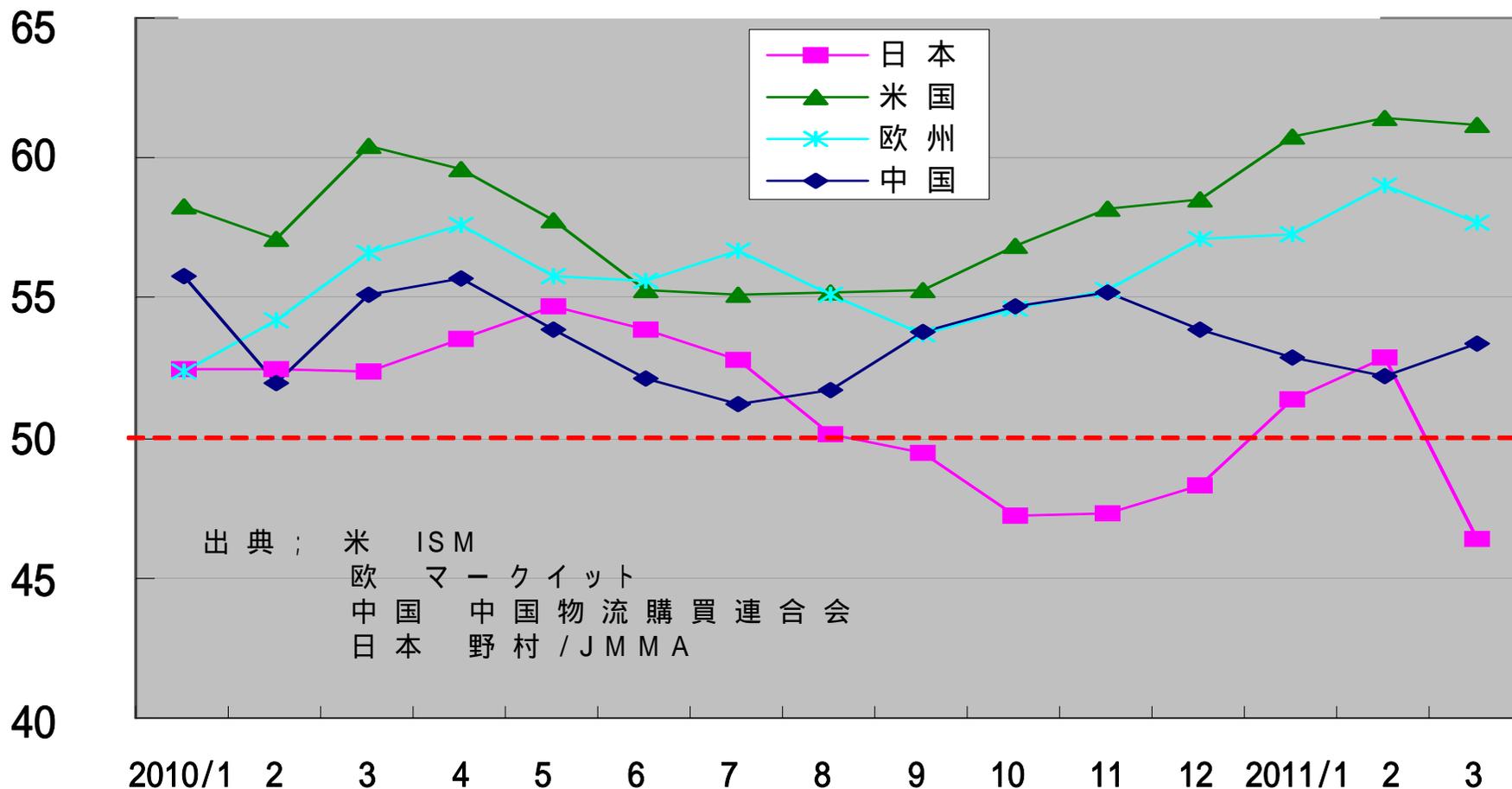
国内市場は上期不透明(大震災による混乱、需要低迷)だが、 海外市場は好調・堅調を持続

(注)2010年度下期 2011年度上期動向

| | | | |
|------|---------|---|---|
| 市場環境 | 半導体 |  | 旺盛な投資が継続するも、大震災の影響で上期後半に立上がる |
| | 液晶 |  | 大震災の影響もあるが、中国大型パネルと中小型精細パネル向け設備投資により拡大 |
| | 自動車 |  | 中国・韓国は堅調。米欧は設備投資回復傾向。日本は回復鈍化 |
| | 鉄鋼 |  | 10年度に続き投資は端境期、環境関連投資は継続 |
| | 環境エネルギー |  | 省エネルギー、新エネルギーに関する需要は大震災により急拡大 |
| 地域動向 | 米州 |  | 設備投資の回復基調が続く、過去ピークを越える勢い |
| | 欧州 |  | まだら模様ながら、緩やかな回復基調 |
| | 中国・アジア |  | 域内需要が強く拡大基調、高水準持続、自動化・ロボット化が追風 |
| | 日本 |  | 大震災後の混乱により、上期前半低迷、上期後半は安定化、復興需要により回復軌道を期待 |

各地域の製造業PMI指数 (PMI指数: 製造業購買担当者景気指数)

米・欧・中国は好調に推移(指数50超)、日本は2011年3月で急速に悪化



2011年度の連結業績予想および位置付け

2011年度の連結業績予想については、現時点で東日本大震災の影響を見極めることが困難なため公表を見送る

大震災による影響を早期に克服するとともに、2012年度中期経営計画の重要方策を着実に遂行していく

2011年度は2012年度中期経営計画の橋渡しの年
(2011年度の重要方策が2012年度業績へのフル効果となる)

1. 伸びる地域・伸びる市場へ注力する(新興国への経営資源シフト)
2. 為替変動(円高)対策を強力に推進する
3. 新規事業の育成・加速
4. グローバル展開のための積極的な投資

2011年度の取り組み

既存事業の拡大

- 中国における事業基盤の強化、市場拡大
- 好調な地域、好調な市場への拡販
- 新製品等の拡販による需要開拓

為替(円高)対策による利益改善

- 現地生産、海外調達拡大
- 価格改善
- 日本国内運営コストのミニマム化

2011年度の取り組み

開発力、生産力、販売力の継続的進化

- 新興国向け人材の育成
- ITによる「見える化」「効率化」
- 製品開発力強化

既存新規事業の拡大加速

- 太陽光パワーコンディショナ
- 大形風力発電用電機品
- 自動車等電気駆動システム
- ロボティクスヒューマンアシスト事業での領域拡大

東日本大震災の影響および対応

被災顧客、被災地の復旧・復興に全社を挙げて支援していく

- 東北地方水処理設備災害復旧支援チームの立上げ
- 被災顧客への支援・対応強化
- 復興需要に対する積極的な取り組み

生産面における影響

- 当社生産設備への影響は僅少
- 部品購入先の被災影響あり(サプライチェーンの混乱)
生産の維持・確保のために経営資源を優先的に配分
- 2011/6～9月における節電対応による影響は不透明

(参考) 設備投資、研究開発費、為替状況

設備投資の状況 (連結)

(単位:億円)

| | 2008年度 | 2009年度 | 2010年度 |
|-------|--------|--------|--------|
| 設備投資額 | 86.1 | 41.2 | 66.6 |
| 減価償却費 | 80.2 | 78.4 | 70.6 |

研究開発投資の状況 (連結)

(単位:億円)

| | 2008年度 | 2009年度 | 2010年度 |
|--------|--------|--------|--------|
| 研究開発投資 | 97.0 | 84.9 | 97.2 |

為替状況 (単独)

| | 2008年度 | | 2009年度 | | 2010年度 | | |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 上期 | 通期 | 上期 | 通期 | 上期 | 下期 | 通期 |
| 対 米ドル | 105.6円 | 101.5円 | 95.6円 | 92.4円 | 89.6円 | 82.9円 | 86.1円 |
| 対 ユーロ | 163.1円 | 148.4円 | 132.1円 | 130.8円 | 114.9円 | 112.1円 | 113.3円 |

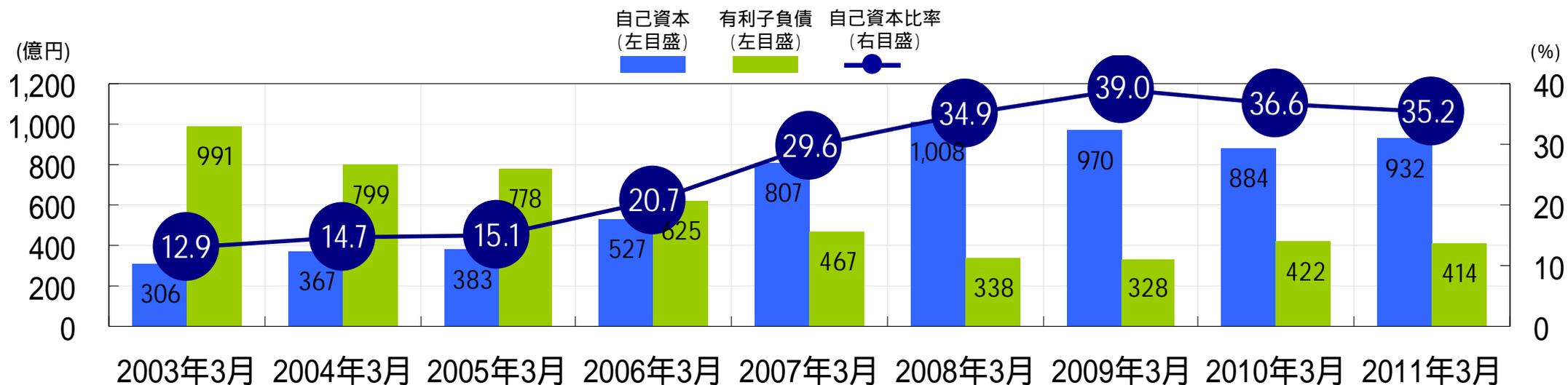
(注)期中平均レート

(参考) B / S 構造の推移 (連結)

| 2010年3月期 | |
|----------|---------|
| ➤ 自己資本比率 | 36.6% |
| ➤ 自己資本 | 884億円 |
| ➤ 有利子負債 | 422億円 |
| ➤ D/Eレシオ | 0.48 |
| ➤ 棚卸資産 | 462億円 |
| (回転月数) | (2.5ヵ月) |

| 2011年3月期 | |
|----------|---------|
| ➤ 自己資本比率 | 35.2% |
| ➤ 自己資本 | 932億円 |
| ➤ 有利子負債 | 414億円 |
| ➤ D/Eレシオ | 0.44 |
| ➤ 棚卸資産 | 581億円 |
| (回転月数) | (2.3ヵ月) |

棚卸資産回転月数の計算には棚卸資産の期末値を使用



| | 2003年3月 | 2004年3月 | 2005年3月 | 2006年3月 | 2007年3月 | 2008年3月 | 2009年3月 | 2010年3月 | 2011年3月 |
|-------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 営業CF | 84 | 185 | 57 | 187 | 149 | 176 | 124 | 40 | 24 |
| 投資CF | 19 | 11 | 22 | 97 | 61 | 99 | 106 | 64 | 67 |
| フリーCF | 64 | 196 | 35 | 89 | 88 | 77 | 17 | 24 | 42 |

(参考) 主要生産拠点 (グローバル事業展開を支える世界最強のネットワーク)

